

**2008年4月3日(木)、セルリアンタワー東急ホテルにて、
第19回五島記念文化賞の贈呈式を開催
財団法人五島記念文化財団が、美術部門2名、オペラ部門3名を顕彰します**

東 急 グ ル ー プ

東急グループ（代表：上條清文、東京急行電鉄株取締役会長）の芸術文化振興財団である、財団法人五島記念文化財団（理事長：清水仁、東京急行電鉄株取締役相談役）では、2008年4月3日(木)11時30分から、セルリアンタワー東急ホテル（東京都渋谷区）地下2階「朝霧」にて、第19回五島記念文化賞の贈呈式を行います。

五島記念文化賞は、豊かな生活環境の創造に力を尽くした、故・五島昇東急グループ代表の遺志を引き継ぎ、美術とオペラの分野で将来性のある有能な新人を発掘し、海外でのさらなる研鑽を資金面で助成することを目的に設立されました。オペラや現代美術界で世界を目指す優れた若手芸術家の登竜門となっており、第1回の錦織健氏（テノール歌手）や第13回の束芋氏（現代美術家）、第11回の森麻季氏（ソプラノ）らが、受賞を機に、世界に羽ばたいていきました。これまでに、第一線で活躍する計82名の芸術家に対して、約6億9千万円の助成を行っています。

19回目となる今年度は、美術部門から2名、オペラ部門から3名の計5名に、五島記念文化賞を授与し、賞金50万円と副賞（海外研修に対する400万円の助成と、海外研修終了後の成果発表の助成）を贈呈します。受賞者の氏名、活躍分野は、以下の通りです。（プロフィール詳細は、別紙をご参照ください）

【美術部門】 鬼頭健吾（きとう・けんご） 現代美術 （愛知県出身）
塩保朋子（しおやす・ともこ） 現代美術 （大阪府出身）

【オペラ部門】

伊香修吾（いこう・しゅうご） 演 出 （岩手県出身）
青山 貴（あおやま・たかし） バリトン （東京都出身）
志田雄啓（しだ・たけひろ） テノール （東京都出身）

五島記念文化財団ならびに東急グループでは、日本におけるオペラ及び美術の発展、向上のため、今後も両分野における優秀な新人を発掘、支援し、社会貢献活動を続けていきます。

（参考）財団法人五島記念文化財団概要

設 立 日	平成2年3月16日
特定公益増進法人認定	平成19年11月26日
主 務 官 庁	文部科学省（文化庁）
基 本 財 産	10億926万円（平成20年3月現在）
所 在 地	東京都渋谷区道玄坂一丁目21番6号
事 業 財 源	基本財産の運用収益ならびに毎年度の寄付金収入を事業資金に充当

以 上

(別紙)受賞者プロフィール

鬼頭健吾(きとう・けんご) 現代美術 昭和52年5月25日生30才 愛知県出身 名古屋在住

平成13年名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業後、平成15年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。
現在、名古屋を拠点に制作を続ける。

平成11年の在学中より平成13年まで、名古屋の自主運営スペースdotの設立、運営にたずさわり、個展やグループ展を通じて作品を発表する。

平成16年、東京のケンジタキギャラリーとGALLERAY KOYANAGIにて個展を同時開催し、代表作となる「コズミック・ダスト」と「クエーサー」を発表する。鏡やラメを取り入れた絵画やインスタレーションにより、現実のポップな輝きと危うい表層感に満ちた特異な世界を現出させ、注目される。その後、平成16 - 17年には「日本の新進作家vol.3 新花論」展(東京都写真美術館)、平成17年「ベリーベリーヒューマン」展(豊田市美術館)、平成18年VOCA展(上野の森美術館)と、多数のグループ展に参加。平成19年には、「パブリックスペースプロジェクト」(東京都現代美術館)、「六本木クロッシング2007:未来への脈動」展(森美術館)に出演し、最も注目度の高い若手作家として期待される。

フラフープやシャンプーボトルなど日常的な既製品のカラフルさ、鏡やラメの反射、モーターによる動きなど回転や循環を取り入れたインスタレーション、立体や絵画、映像など多様な作品を発表。現代の人工的なカラフルさや輝きと、生命体や宇宙を感じさせるような広がりを混在させる。

平成15年京都市立芸術大学大学院修了制作展 奨励賞

本財団の助成により本年9月からアメリカ・ニューヨークにて滞在制作し、自身の絵画を発展させるとともに、新たな素材の収集と手法の研究を通じて、従来にはない絵画を出発点とする絵画的空間インスタレーションの可能性を追究することを目的に研修する。作品発表と同時に、作家とキュレーター、ギャラリスト、評論家などがともに展覧会を企画し、時代のアートシーンをつくりあげる新たなスタイルを、多くの作家や美術関係者との交流を通じて確立することを目指す。

塩保朋子(しおやす・ともこ) 現代美術 昭和56年8月18日生26才 大阪府出身 大阪在住

平成16年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業。在学中、福島敬恭、小清水漸、野村 仁、松井紫朗、中原浩大の諸氏に師事。平成16年東京環境工科専門学校自然環境保全科一年就学。

自然をテーマに、カッターナイフやハンダごてを使って、合成紙などを切り抜く、溶かすという、ごく繊細な手の仕事の反復による作品を生み出している。命の増殖や長い年月を掛けて繰り返される自然のリズムに込められた、祈りにも似た手の刻みの行為から、仏教や禅などに通じる宇宙の真理を追求する世界観の表現を目指している。

平成17年「6th SICF グランプリ作品発表展覧会」(スパイラルショウケース・東京)にて初個展を開く。平成18年には、「Kyoto Art Map2006」(同時代ギャラリー・京都)、「ブレッシングウォール」(INAXギャラリー2・東京)にて個展。同年、SCAI THE BATHHOUSE より「福武ハウス in 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」(新潟)に出品し、本年7月には SCAI THE BATHHOUSE (東京)にて個展予定。グループ展では、平成16年「incubation 04」(京都芸術センター)、平成17、19年「京都府美術工芸新鋭選抜展」(京都文化博物館)、平成19年「VOCA 展」(上野の森美術館)など他多数。

平成17年 6th SICF グランプリ 受賞

本財団の助成により来年3月から、中国、ヨーロッパを拠点に、中国の文化遺産や自然遺産などに触れ、日本人の美意識の原点でもある仏教の精神や心を学び、また、ヨーロッパの現代のアートシーンを巡り、より客観的に自作と向き合うことで、今後の表現活動に生かしていくことを目的として研修する予定。

伊香修吾(いこう・しゅうご) 演出 昭和49年4月2日生34才 岩手県出身 オーストリア・ウィーン在住

岩手県立盛岡第一高等学校卒業。東京大学経済学部を経て同大学院経済学研究科修士課程修了。その後ロータリー国際親善奨学金および野村国際文化財団奨学金を受けてロンドンに学び、ミドルセックス大学大学院舞台演出科修士課程修了。

現在主にオペラの分野において活動しており、1997年から2006年まで、自身が東京に設立したフライングマウスオペラを主宰する。これまでの演出作品として、オペラに「コジ・ファン・トゥッテ」「つばめ」「カルメン」「リゴレット」「ジャンニ・スキッキ」、オペレッタに「こうもり」「メリー・ウィドウ」「チャールダーシュの女王」、サルスエラに「パロマの夜祭」があり、オペレッタ作品では訳詞も手がけている。またこれまでに英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、東京のオペラの森、ウィ

ーン・フォルクスオーパー、バーデン市立劇場、英国スタンリーホールオペラ、横浜オペラ未来プロジェクト、新国立劇場、ベルリン・イントランジット芸術祭などの公演に参加し、ミハエル・ハンペ、クリスティーネ・ミーリッツ、ピエール・アウディ、マルコ・アルトゥーロ・マレリ、ロベルト・ヘルツル、ロバート・ベイリー、デイヴィッド・エドワーズ、マイケル・マカーフェリー、渡辺和子などのアシスタントを務めている。

本財団の助成により本年7月から、ウィーン国立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、ザルツブルク音楽祭などの公演に参加して研鑽を積む予定である。また同時に、オペラの現場で必要とされる諸外国語の習得に努めるほか、オペラ、演劇、ミュージカル、バレエ、コンテンポラリーダンスなど、舞台芸術全般のリサーチ活動にも引き続き力を注ぎ、分野横断的に今後の活動の可能性を追求していく。

青山 貴(あおやま・たかし) バリトン 二期会会員 昭和50年11月20日生32歳 東京都出身 イタリア・ミラノ在住

平成10年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に松田トシ賞受賞。宮内庁主催桃華楽堂御前演奏会に出演。同大学大学院修士課程オペラ科を修了し、平成13年二期会オペラ研修所第44期マスタークラスを最優秀賞、川崎静子賞を受賞して修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。大久保省三、鈴木寛一、セルジオ・ベルトッキの諸氏に師事。

平成11年、芸大定期「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ役でオペラデビューし、新国立劇場オペラ研修所公演「魔笛」パパゲーノ、「フィガロの結婚」伯爵、「こうもり」ファルケ、「ラ・ボエーム」ショナール、「アルバート・ヘリング」ゲッツ牧師で出演。新国立劇場本公演には平成15年「ホフマン物語」ヘルマンでデビューし、平成16年「マクベス」第一の幽霊、「カルメン」モラレスで出演。平成20年「黒船」第二の浪人、第二の漁師役で出演。

また、びわ湖ホールオペラでは「スティッフエリオ」スタンカー、「海賊」セイド役のカバーキャストで公演に参加した。

二期会本公演には平成18年「蝶々夫人」ヤマドリでデビュー、平成19年「仮面舞踏会」レナートで出演。その他、「第九」、「メサイア」、「レクイエム」、「ミサ曲」受難曲等のソリストとして数多く出演している。

平成16年度文化庁在外派遣研修員として1年間ボローニャに留学。ボローニャ王立音楽アカデミーで学ぶ。平成18年からはロームミュージックファンデーション在外研究員として再び渡伊。ボローニャ、ミラノで研鑽を積んでいる。

平成19年 第6回カルロス・ゴメス国際コンクール第1位受賞(イタリア・トリノ)

本財団の助成により来年1月から、現在拠点にしているミラノで引き続き研修する予定。発声のテクニックの追求、イタリア語の習得、イタリアオペラのレパートリー拡大を軸として、オーディションやコンクールに積極的に挑戦しながら研鑽を積む。

志田雄啓(しだ・たけひろ) テノール 日本声楽アカデミー会員 昭和50年8月26日生32才 東京都出身 千代田区在住

東京芸術大学音楽学部声楽科卒。同大学院オペラ科修士課程修了。同大学院オペラ科博士課程を修了し、博士号(音楽)を取得。

オペラでは「コジ・ファン・トゥッテ」、「ドン・ジョヴァンニ」、「イドメネオ」、「魔笛」、「ラ・ボエーム」、「トスカ」、「椿姫」、「シモン・ボッカネグラ」、「カヴァレリア・ルスティカーナ」、「カルメン」、日生劇場主催の「アラジンと魔法のランプ」等にプリモテノールとして出演。ミュンヘンでおこなわれた現代音楽祭にて、細川俊夫作曲「リアの物語」に出演。

コンサートではモーツァルトの「戴冠ミサ」、「レクイエム」、「八短調ミサ」、ヘンデルの「メサイア」、ベートーヴェンの「交響曲第9番」、「合唱幻想曲」、ヴェルディの「レクイエム」、ショスタコーヴィッチの「森の歌」、ヤナーチェクの「グラゴルミサ」のテノールソロを務める。

また、研究活動として日本の伝統的文化を根本精神においたオペラの創作にも大変力を注いでいる。2002年にはヴェルディのマクベスを、舞方を能役者と日本舞踊の役者に、謡方をオペラの役者に担当させ、1つの役を邦楽の舞と洋楽のオペラの2人によって担当させるという斬新な演出で好評を博し、続く2003年はマクベス、2007年には「王女メデア」の企画、演出、歌台本(日本語)を手がけ、映像、建築、漆、鍛金、油絵、先端芸術、楽理、邦楽、指揮、打楽器、オペラ等各科の芸大生と共に舞台芸術の新たな可能性を示唆するに至った。

故疋田生次郎、高橋大海、鈴木寛一、直野資の各師に師事。現在、東京芸術大学非常勤講師、聖徳大学大学院音楽文化研究科講師。

平成17年 第74回日本音楽コンクール声楽部門(オペラ)第1位 松下賞受賞

本財団の助成により来年2月より、アメリカを拠点に研修予定。研修の目標として、歌唱の表現力に焦点をあて、劇的な表現力の充実を目指す。また、劇場等のオーディションにも積極的に参加し研鑽を積む。